

そうだったのか!

学習評価

本コーナーの2023年度8～2月号を基に、チェックポイントをまとめました

今号のテーマ

チェックポイント 1 「総括的評価」と「形成的評価」の違いを理解できている。

総括的評価は評定をつけるための評価で、場面を限定して行います。一方、形成的評価は指導改善に生かすための評価で、基本的には毎授業行いますが、評価の生かし方は個々の教師に委ねられます。その違いを理解することは、適正な評価や評価に対する負担感の軽減につながります。

● 総括的評価と形成的評価の違い

	総括的評価	形成的評価
目的	評定をつける	指導の改善に生かす
実施 タイミング	育成を目指す資質・能力が顕著に表れると考えられる場面や成果物などを選んで実施	基本的に毎授業で実施
対象	生徒全員を評価	生徒全員でなくてもよい
仕組み	少なくとも同一科目では、教師間で評価規準や評価方法を統一	教師それぞれの方法で評価してもよい
方法	単元末テスト、パフォーマンス課題、レポートなど	観察、振り返りシート、小テストなど

※田村学教授への取材を基に編集部で作成。

セルフチェック 理解できていた 理解できていない点があった

8月号の本コーナー(P.32-33)では、総括的評価と形成的評価について詳しく解説しています。右の2次元コードからアクセスしてください。



チェックポイント 2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、「知識・技能」の習得や「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けた学習者の意思的な側面を評価することだと理解できている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、生徒が自分の学習状況を把握し、自分の学習を調整しながら学ぼうとしているかといった意思的な側面を評価することが求められます。生徒に期待するそうした態度や姿を具体的に言語化し、評価規準を設定することが重要です。例えば、下のフォーマットを参考に作成してみましょう。

● 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定フォーマット

○○について(おいて)、△△しながら(して)、□□しようとしている。

○○：活動や場面、状況など △△：態度に関する非認知系の知識など
□□：「主体的に学習に取り組む態度」として表れる行為

例1 レポートの作成において、友人の考えを参考にしながら、自分の考えをまとめようとしている。

例2 グループ活動において、互いのよさを生かしたり、独自のアイデアを発揮したりしながら、問題解決を図ろうとしている。

※田村学『学習評価』(東洋館出版社)を基に編集部で作成。

セルフチェック 理解できていた 理解できていない点があった

10月号の本コーナー(P.28-29)では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について詳しく解説しています。右の2次元コードからアクセスしてください。



4つの チェックポイント

年次進行で実施されてきた高校の新学習指導要領が今年度、いよいよ全面实施となります。そこで今号では、今回の学習指導要領改訂の柱の1つである学習評価におけるチェックポイントを、本コーナーの23年度の記事を基にまとめました。校内全体の理解度を確保する資料として、ぜひご活用ください。

理解度を確認!

本記事のお勧め活用法

チェックポイント1～4の理解度を教師一人ひとりがセルフチェック



校内全体で理解度が低かったチェックポイントを特定



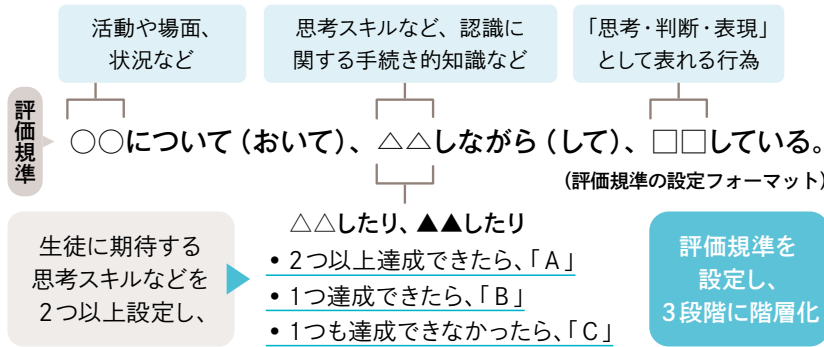
理解度が低かったポイントについて詳しく解説した本コーナーの23年度の記事を用いて校内研修などを実施し、理解を深める

チェックポイント 3

生徒の実態に即した学習評価ができる評価規準がどのようなものかを理解できている。

評価規準は、「その学習によって期待する生徒の姿」を具体的に言語化したもので、ペーパーテストでは見取ることが難しい資質・能力を評価することが可能になります。評価規準をどの程度達成したかという質的・量的な評価をするためには、評価規準を設定した上で階層化することが考えられます。例えば、評価規準の設定フォーマットを用いて、生徒に期待する思考スキルなど（下図の△△の部分）を複数設定し、2つ以上達成できたら「A」、1つ達成できたら「B」、達成できなかったら「C」として、3段階に階層化することができます。

● 評価規準の設定の例 「思考・判断・表現」の場合



△△の例：比較しながら／関連づけながら／見通しながら／工夫しながら など
□□の例：論述している／観察している／伝え合っている／計画を立てている など

※田村学『学習評価』（東洋館出版社）と田村学教授への取材を基に編集部で作成。

セルフチェック

- 理解できていた
- 理解できていない点があった

12月号の本コーナー（P.26-27）では、評価規準の設定と運用のポイントについて詳しく解説しています。右の2次元コードからアクセスしてください。



チェックポイント 4

評定への総括の方法を理解できている。

評定への総括にあたって、観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）に係る記録が観点ごとに複数ある場合は、まずはそれらを総括します（下図①）。その上で、総括した観点別評価の結果を、A、B、Cの組み合わせによる方法（下図②左）や、A、B、Cを数値に置き換える方法（下図②右）などで評定として総括します。

① 観点別評価に係る記録が観点ごとに複数ある場合の、その総括の方法例

評価結果のA、B、Cの数を基に総括する方法

例えば、3回評価を行った結果が「A B B」ならば、最も数が多い「B」と総括する。

	知識・技能
単元①	A
単元②	B
単元③	B
1学期末の評価	B

評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて総括する方法

A=3、B=2、C=1のように数値化。平均値を出して総括する。

	知識・技能	数値変換
単元①	A	→ 3
単元②	B	→ 2
単元③	B	→ 2
1学期末の評価	B	← 平均値約2.3

注)「B」とする範囲を「1.5 ≦ 平均値 < 2.5」とした例。

※国立教育政策研究所教育課程研究センター『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（高等学校編）と、田村学教授への取材を基に編集部で作成。

② 総括した観点別評価の結果を基に評定に総括する方法例

各観点の評価結果をA、B、Cの組み合わせにより総括する方法

例えば、総括した3観点の評価結果が「A B A」ならば、「4」とする。A、B、Cの組み合わせと評定がどう対応するかは、事前に設定しておく。

	観点別評価の結果
知識・技能	A
思考・判断・表現	B
主体的に学習に取り組む態度	A
評定	4

A、B、Cを数値に置き換えて総括する方法

A=5、B=3、C=1のように数値化。平均値を出して総括する。

	観点別評価の結果	数値変換
知識・技能	A	→ 5
思考・判断・表現	B	→ 3
主体的に学習に取り組む態度	A	→ 5
評定	4	← 平均値約4.3

注)「4」とする範囲を、「3.5 ≦ 平均値 < 4.5」とした例。

セルフチェック

- 理解できていた
- 理解できていない点があった

2月号の本コーナー（P.28-29）では、評定への総括の考え方や方法について詳しく解説しています。右の2次元コードからアクセスしてください。

